

# 大正寺おけさ～北前船が運んだ座敷唄

大正寺おけさは、土地の人達以外には余り知られていない唄である。元唄は、九州の西部沿岸で歌われた「はいや節」が、沿岸航路を廻った北前船によって運ばれたものだといわれている。この唄が、日本海沿岸を北上する途中で、佐渡の小木、越後の出雲崎などに上陸してから、歌い出しの「おけさえー」が題名になっておけさ節と呼ばれる様になったということである。

この唄が更に北上して秋田県では由利郡金浦、当時南秋田郡だった土崎、土崎から雄物川を遡上して、これも河辺郡だった大正寺地域のその足跡を残したという。同じ系統の唄が出羽丘陵を越えた内陸地域に、仙北はいや（おけさ）などの名で歌われたというが、今はその足跡を辿るすべもない。

今県内では、大正寺おけさだけが辛うじてその俤を留めている。土地の人の話では、大正寺地域でおけさ節が歌われたのはかなり古くからのことで、明治の中頃には、太鼓の拍子で踊りも踊られたものだといっている。当時の大正寺は、土崎港から雄物川を遡上する川船の中継地で、ここにおけさ節が根着いたこともよく判る。

秋田地域から北上したはいや、おけさは、津軽から南部へ伝わり、更に宮城県の塩釜甚句になったともいわれている。

## おけさのルーツを求めて

東廻り航路と大阪、江戸間  
定期航路による流布

(西廻り船＝北前船) -----  
下関から日本海側の各港に停泊しつつ青森迄の航路

(東廻り船)  
山形県の酒田港から北上し、一度青森に入り津軽海峡を通り、太平洋を下り、各港に寄港し、油壺港に入り、伊豆の下田迄に至る航路

(上り船・下り船)  
大阪から瀬戸内海を通り九州西海岸を廻り、鹿児島へ至る航路

(定期航路＝菱垣廻船) -----  
江戸と大阪を結ぶ航路



全国はいやサミット開催地

①第1回	新潟県赤泊村	(現佐渡市)
②第2回	長崎県平戸市	
③第3回	熊本県牛深市	(現天草市)
④第4回	新潟県小木町	(現佐渡市)
⑤第5回	秋田県雄和町	(現秋田市雄和)
⑥第6回	島根県浜田市	
⑦第7回	新潟県相川町	(現佐渡市)
⑧第8回	新潟県柏崎市	